

新型コロナウイルス 感染症の新変異株について

- 世界における発生状況などについて
- 変異株の発生について
- 変異株の分類について
- オミクロン株について

世界における発生状況などについて

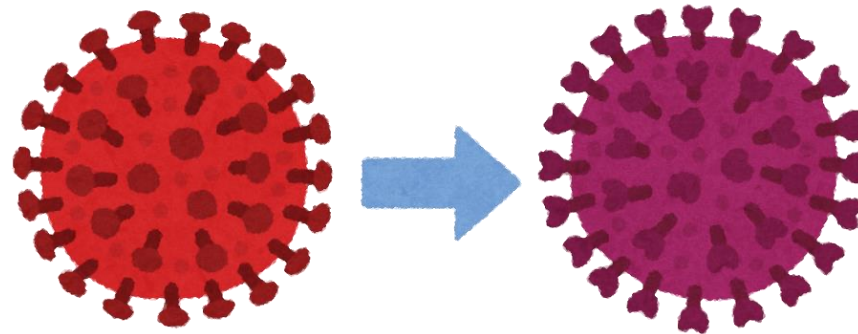
- 日本国内では、福島県同様、全体的に新規患者発生数が抑えられています。しかし、アフリカ地域で南アフリカ共和国を中心に93%と大幅に増加し、西太平洋地域で24%、ヨーロッパ地域で7%増加しました¹⁾
- 一方、ヨーロッパ地域を除いた世界全体での新規死亡者数は、人口10万人当たり1人未満となりました¹⁾

こんにちは。相双保健所長の堀切です。相双管内では11月に1名のみ、新型コロナウイルス感染症新規患者の発生がありました。幸い、新たな感染者を発生させることなく収束いたしました。

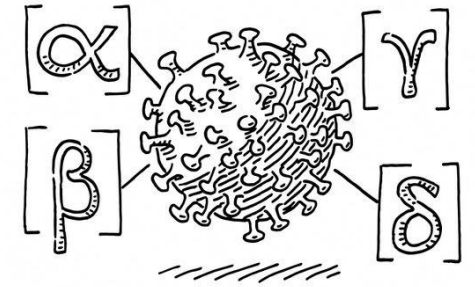


変異株の発生について

- 令和3年8月18日に掲載しました、ウイルスの変異株の記事でも申し上げた通り、大抵のウイルスは、その時その場におかれた環境に適応しようとして、変異を繰り返しながら、自身を保つようにしています。繰り返しますが、ウイルスの変異はほぼ確実に起こるものであり、これを防ぐ手立てはありません。
- また、変異を起こしたウイルスはすべて、われわれにとって脅威となるわけではなく、毒性が弱まったり、生存そのものができなくなったりすることも少なからずあります。



変異株の分類について



- WHO(世界保健機構)は、新型コロナウイルスの変異株に関する一般の人々の議論を促進するために、懸念すべき変異株(VOC)及び注目すべき変異株(VOI)の言いやすい・覚えやすい新たな呼称を発表しました¹⁾。
- 通常の変異株のうち、危険度(感染力や症状の強さなど)が高いと予想されるものはまず、VOIに指定され、その後の状況を見て、VOCに指定するかの判断がなされます。
- 令和3年11月末現在、VOCに指定された変異株は5種類あります。すなわち、アルファ(Alpha)株、ベータ(Beta)株、ガンマ(Gamma)株、デルタ(Delta)株、そして、最近指定されたオミクロン(Omicron)株です¹⁾。
- また、VOIに指定された変異株は、ラムダ(Lambda)株とミュー(Mu)株の2種類です¹⁾。

変異株の分類について②

- これらの名称は、ギリシャ文字を最初から順番に割り振って名付けられましたが、ニュー(Nu)とクサイ(Xi)は、発音や記載が、英単語や人名と重なってしまうことから使用が回避されたといういきさつがあります。
- 現在の日本では、患者総数が少ないものの、ほぼすべてがデルタ株です。デルタ株よりも前に、日本で発見され、拡散したアルファ株は既に検出されていません。
- また、世界全体を見ましても、調査機関に報告されたウイルス株のうち、99.8%がデルタ株であった、と報告されています¹⁾。ところが、南米諸国に絞って観察をすると、大部分がガンマ株、ラムダ株、ミュー株です¹⁾。

このことから、ウイルスは、その環境に適したものが残っていくということが予想できます。



オミクロン株について

- 南アフリカ共和国で最初に発見されて以来、同国内で急速に感染が拡大した変異株です。その後、日本を含む（日本への入国者が既に感染していた、という状況ですので、日本国内で流行しているわけではありません）一部の限定された国内で発見されています。
- このオミクロン株について、わかっていることはまだ多くありませんが、感染力は高そうだが、という予想のもとに、VOIに指定される段階を飛ばしてVOCに指定され、同時にオミクロン株と命名されました。また、重症度はデルタ株などと比較して低いのではないかと予想されていますが、まだ結論は出ていません。
- 現在、政府はオミクロン株の感染者が発生した場合、従来よりも濃厚接触者の指定範囲を拡大して対処する、など、オミクロン株の詳しい状態が判明するまで、最大限の警戒を持って対応しているところです。
- 管内の皆様におかれましては、今まで通りの感染対策を継続していただければ問題ありません。引き続き、皆様のご協力を賜りたく存じます。

参考文献

1)新型コロナウイルス感染症の世界の状況報告:厚生労働省検疫所. 令和3年11月30日

令和3年12月6日